

発は1機でしたが、福島原発は3機稼動しており、1号建屋、3号建屋、爆発、2号建屋も煙が上がると続き、世界中がチェルノブイリより遥かに大きな重大事故、極端に言えばこの世の終わりを匂わせる報道まであった。

従って、日本発信の報道は凄まじく悲惨なものになるだろう、思っていたが、保安院の発表は何故か日本人が聴いても意味不明なシドロモドロな応答、外国人記者には理解できない記者会見、枝野官房長官の政府発表も歯切れはよいが、経過だけの発表で奥行きがない、しかも手話通訳はあっても、同時通訳はない片手落ちの記者会見でした。

もう一つ、保安院が外国人だけの記者会見をやっており、CNN でその中継を視た。

保安院の西村審議官が担当しており、相当厳しい質問がありましたが、これまた歯切れの悪い応答に成らないような応答に終始、記者会見に臨んだ記者達は苛立っていたようだ。

さらに現場に取材に行けないもどかしい思いが強かったのでしょうか。記者会見の後で、1記者が曰く、本社からもっと掘り下げた記事を送れと矢の催促だが、発表が少なく、しかも経過だけの表面だけで、送る記事が少ないので、日本政府は何か重大情報を隠しているのではないかと勘ぐるのは当然、事実その様な記事を送ったようだ。

しかし、かつての大本営発表のような意識的に虚意の発表や情報操作をする、という事はゼロでは無いでしょうが、少なかったと思う。

最初の政府発表ではレベル4相当としてましたから、スリ・マイル島事故よりは低いくらいだとやや安心していましたが、次の発表はレベル5になり、さらにレベル7と引き上げらると発表されたときはチェルノブイリと同じ程度と知って仰天した。

テレビで原子力の専門家が解説してたが、水で冷やしておけば大丈夫、我国の技術力を持ってすれば収束するのは近いと、していたが、レベル7に引き上げられてからは解説者が番組から消えてしまった。



外国での報道では、東電、日本政府の責任追及の論調が多く、特にフランス・メディアは厳しく切り込んできた。東電のトラブル隠し、「怠慢と不透明な10年」、事故後の見通しの甘さ、日本には原子力の専門家はいない、とまで断じている。ドイツでは「死の恐怖東京」「東京に放射性の雲」と反原発を煽るような記事が続き、ロシア、中国、韓国等世界のメディアがこぞって報じたのは日本政府、東電の見通しの甘さ、後手に回る対応、反応の鈍さを指摘、またより正確な情報を得たいならアメリカ政府に取材した方が確実だ、との皮肉った報道もあった。

日本政府の情報操作や情報隠しの真相はどの程度なのかは分からないが、国民の動揺、風評被害を怖れて過小評価したきらいはあったようだし、また、東電自体が情報を出し惜しんでいたようで、事故前でも資料改竄問題、隠蔽工作、告発の内部もみ消し等何度も問題視された前歴があり、当然事故後も情報操作をしているだろうと推測されても不思議ではない。外国メディアからは批判的な報道が数多くあったし、情報が少ないので推論で大袈裟な記事が報道されたのも事実だ。

情報発信が少ないから、あるいは情報操作の結果、かえって日本に対する悪感情を増幅し、信用を失ってしまったことになる。

全てのことに言えることは日本人は情報発信が苦手だ。